

「淀川水系河川整備計画原案に対する疑問(再々、再質問、新質問等)

2007年12月3日

自然愛・環境問題研究所

代表 浅野 隆彦

1) 【1268】 今回の「原案」の最大欠陥はこれまでの回答にみられるように、「計画策定にあたっての基本的考え方」として「将来視点が見られない」あるいは「将来視点を避けている」ところに在るのではないか？

もしそうであるならば、修正の利き難い「ハード」面を削除して「計画案」を提示すべきなのではないか？『将来(概ね10年後)の経済社会の具体的な姿の提示』すら出来ないのであれば、20年～30年に渡る「計画」を提示する資格さえ疑われるのではないか？以上を反省し、その「手続き」を実践される考えはないか？

2) 【1269】 大規模な河川改修だけが「河川環境悪化」の元凶と考えているとしたら、一元的な見方ではないだろうか？変化に富んだ地形を奪った元凶は確かに「河川整備」と思われるが、「変化に富んだ地形と固有種を含む多様な生態系が残されていた頃」とすると、少なくとも「戦前」の頃(厳格な生物学者によれば、『外来種の侵入が殆んど無かった江戸時代まで逆上らなくてはならない』と言われている。)としなければならないのではないか？

3) 【1271】 川上ダム湛水予定地から「移転試験」として上流へ移したオオサンショウウオの成体は何尾か？その再確認尾数は？移転年月日、再確認年月日とも示されたい。

4) 【1272】 具体的な文言を挙げ、原案の一部を変えられないかと問うている質問である。

5) 【1275】 原案において、「都市型氾濫対策や流域治水対応策」が余りにも少ないと思われませんか？積極的にそれら具体策を「原案修正案」として示そうとは思われませんか？

6) 【1277】 「ハザード・マップ」の浸水量については疑義がある。破堤想定地点毎の浸水量を全て積算・加重していると聞いている。1箇所の堤防破堤の結果は、その地点の地形その他の要因により規制され、それなりの限界があり、何処までも及ぶものではない。「昭和28年台風13号の2倍の降雨を想定した場合の堤防決壊による被害」という「検討内容の詳細」を示されたい。「ハザード・マップ」そのものの「検討内容詳細」も示されたい。

7) 【1278】 【1279】 「流出解析」と言えば、流域に刻々降る雨が大地を湿潤させ、終には地表でも流れ、河川に集中し洪水となって流れる現象を水理学、水文学の考えから「計画洪水流量」として捕らえようとする「検討」であり、「流出解析法」には幾つもの方法があるが、国土交通省河川局では小流域や都市河川以外の河川において、一般的に「貯留関数法」と呼ばれる方法で行っている。……こんな事まで言わせるのは、今のところ「存在」していず、これから「作成」するからではないか？

実績降雨データから初め、ハイドロ・グラフに至る全ての検討内容を示されたい。

8) 【1280】「バランスの定義・基準」を回答できていない。これでは「淀川水系河川整備計画原案」の説明が完遂できない。時間がかかっても考えて回答されたい。

9) 【1281】 学問的見地で回答できないと言う事は、河川管理者としての資格が疑われるものであり、時間をかけてでも回答されたい。

10) 【1282】 若干の要素、地域指定などは回答されたが、この地域における「流域治水対応」がどうなっているのかや、「戦後最大洪水」と「計画規模洪水」における「氾濫シミュレーション」や「耐水化対策」に対する回答が脱落している。

11) 【1286】 灌漑期には「森井堰」から取水された水が「八幡排水樋門」から排水されている。更に非灌漑期にも「伊賀水道守田浄水場」の溢流水(貯水タンクのオーバーフロー)が排水されており、相当な量が流れている。これらの水が「大内水位・流量観測所」を迂回して遠く、久米川合流部で還元されている事は、上記観測所の立地が如何に役立たずかを示すものではないか？

用水経路は東側山際を通る水路があり、「伊賀市水道部」の北側で2経路に別れ、八幡地区に流れているのである。

森井堰の取水幹線用水路には2箇所ポンプ揚水があり、上記山側の高地へ送られ、その山際の水路を使って流れているのである。これらの実際が脱落した「用水経路図」に不備がないとはどういうことか？

12) 【1287】 「住民対話集会」における意見を訊いているのではなく、「代替案の実際的、具体的調査・検討」の「調査記録＝現地地権者、所有者、管理者等に対する聞き取り録」を示すよう求めているのである。

はぐらかすような回答は止めてもらいたい。やっていないのであれば、正直に『遣っていません。』と答えるべきではないか？

13) 【1291】 この時点の「学識経験者のコメント」というのは何時の事か？「川上ダムの水質予測を鉛直2次元モデルに変えて検討」するようになる前だ！と聞いている。これの外、『川上ダムの貯水容量と年平均堆砂量から想定される「ダムの寿命は1, 200年以上」であり、ダム貯水池容量の持続性の観点からは、排砂ゲートや排砂バイパスなどを設置して行う大規模な土砂管理方策の必要性は大きくない。』との＜学識経験者＞のコメントも記載されているが、恥ずかしくないのか？ご本人は「生物学方面」の専門家であり、誤った認識も特に責められないが、「ダムの設計をする」水資源機構側がこのようなコメントを記載する事には大きな問題点が残るのではないか？「ダム・アセット・マネジメント」の主張と大きく矛盾すると思わないか？

尚、質問の「改め提案」への回答がないのはどうしたことか？

14) 【1295】 モデルダムを使い水質予測をすることは、大きな「誤差」が生まれる可能性がある。この過去の事例についての検討に基づき、その範囲等の推定や問題点の「集約」がなされていないと示さなければならない。

回答はその「検証」がなされていない事を、「暗黙」として示していると捉えて構わないのか？

「近傍の管理所等の観測値と関係式を算定し、水質予測に使用している」とのことだが、詳細に具体例を示して貰いたい。

15) 【1296】 流入量、放流量の詳細を示して貰いたいと言っているのである。流入は平成6年～平成15年の10年間の実績日流量、放流は検討に用いた算定条件を含む計算結果の詳細を「別紙」に示されたい。

16) 【1297】 「原案」に関連する説明要件として、速やかに「別紙」へ記載されたい。

17) 【1298】 凡その感じは受けるものの「現状の詳細」はわからない。「仮排水路トンネル閉塞工事竣工図」を高さ関係、ダムサイトとの位置関係共に分かる資料として示して貰いたい。

18) 【1299】 これまでの水資源公団、水資源機構が行った「地質調査のデータ、報告書」の分析から指摘しており、核心部分についての「反論」が出来ていない。今回の回答においても同じであり、「公開トレンチ調査」程度のもを避けようとしている事に疑惑を感じる。

今回の回答において2箇所のボーリング調査を行ったとの事だが、その「調査報告書」を示されたい。既設の「DRB-3ボーリング」では地下水位が非常に低いことが分かっている。今回のボーリングが鞍部より桐ヶ丘団地側であれば、設定位置が適切であったかどうかの検証が必要であり、地層の詳細把握が求められるところである。

19) 巨大な黒雲母片岩の周辺は、その風化が進行し、パーミキュライトの生成が著しく進行していることが「ボーリング調査」データから読み取れる。緑黒色の粘土が広がっていると判断できる。明らかに「すべり面」も形成され、湛水時の挙動が心配されるところである。この上部の風化岩層一帯も「クリーブ地形」を示しており、黒雲母片岩周辺の「すべり」は大規模な「地すべり」となる可能性が高いと思われる。

ダムが出来てから…と言う姿勢は、「税金喰らい虫」の無責任論理から来ている。大滝ダムのように「膨大な建設費」に膨らませて良いのか？

現在、「原案」に実施することが提案されているが、実施以前の適切な調査・検討を「第三者検討会」に委託する事を求めるものである。如何か？

20) 「航空機レーザ計測データ」を使い、河道の流下能力判定が行われている。淀川水系に関わる河川の「第一次判定」結果を全て示されたい。

21) 霧生雨量観測所の開設は何時か？ 以来の「降雨記録」を全て示されたい。